

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表: 2021年3月1日

事業所名 genkiキッズ 東成クラブ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		天井高を3m以上にしており、子供達の活動量を上げられるようにしている。	デスクスペースの無い指導訓練室(プレイルーム)にしている。
	2 職員の配置数は適切である	○		児童指導員3~4名を配置している。	当社のコンセプト上、子供達の活動量をしっかり確保する為、検討を重ねた結果、室内では過剰な人員配置を控えている。イベント時は必要に応じて人員を増員している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	プログラムは視覚で表し、情報が交錯しないように出来るだけシンプルな空間作りを行っている。	手すりなどを付けると活動の妨げになったり、玄関は段差が無いと砂等が上がってしまい不衛生になる為、敢えてバリアフリーには致しません。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		動き回りたいたいお子様が多いので、出来るだけ広く空間を取るようにしています。また、空気清浄機を設置し、毎月1回、大掃除を行っている。	日頃、動き切れておらず、発散しきれていない、多動傾向のお子様向けに思いっきり動き回っても大丈夫なように空間作りを行っている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日、支援記録記入後に振り返りを行い、終礼時に共有している。休んでいる職員には必ず支援記録に目を通し、捺印するようにしている。	短期目標に則った支援記録作成に努めており、目標に沿った支援を心掛けるようにしている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今回、マイナスのコメントが全く無い所まで改善したが、声にならない内容を拾っていく必要がある。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HP上にて公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者の選定が必要である。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		平日の午前中に実施されている研修に出来る限り参加した。また、空いた時間に視聴出来るオンライン研修を活用した。	コロナ禍であった為、1人ずつ順番に参加出来る外部研修に参加するようにした。また、虐待防止やコロナ感染症対策等、必要なオンライン研修にも合わせて参加した。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		契約時に新規のアセスメントに1時間半程度時間をかけて聞き取りを行っている。	モニタリングの保護者面談時に更新アセスメントを実施するようにした。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		当社のコンセプトに即した独自のアセスメントシートを作成している。	どの職員もフェイスシート・アセスメントシートを確認してから子供達に関わるようにしている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		子供自身の出来る事に焦点を当て「発達支援」を中心に支援内容を作成している。	日常生活動作・静の動作(待機姿勢・学習支援)・ソーシャルスキルの3つの目標を入れるようにしています。「発達支援」が「家族支援」となるように計画している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		記録者全員が支援計画書を見ながら記録を行うようにしている。	集団の中で短期目標の達成となるように療育を行うようにしている。また、グループダイナミクス効果を狙った支援を心掛けている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		月毎に土曜・祝日・長期休暇日を利用した行事を計画している。	マンネリ化しないように話し合い、何の為に実施するのかを考えながらプログラムの立案を行っている。色んな大会を積極的に開催するようにし、モチベーションや自己肯定感の向上を狙った内容にしている。
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎日、変わる集団遊びを実施しています。また、イベントとして合宿や各種大会等も実施している。	他ではなかなか味わえないような活動プログラムを考え、月に1つ以上はメインとなる活動を入れるられるように考えている。ここ1年は積極的に色んな大会を開催し、「挑戦」「気持ち」「努力」をテーマに行った。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		コンセプト上、動作面・行動面・運動面・静の動作を中心に作成しています。	個別では個の能力の向上、集団ではその能力を生かした調和を目的としている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日、朝礼を必ず行って、伝達している。	役割分担については職員に視覚化し、別紙にて行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日、終礼を必ず行い、今日あった事と明日の内容を話し合うようにしている。	特に帰りの送迎時にご家族から聞いた話等を必ず報告するようにしている。全員が周知できるよう心掛けている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別支援記録を毎日記録し、スタッフ全員が周知する為に確認印を押すようにしている。	別に業務日報を作成し、個にスポットを当てた特記事項を記し、その内容の改善に向けて取り組んでいる。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		1か月ごとにモニタリングを実施している。計画書の更新時には、短期目標についての評価を行っている。	利用頻度が週1回以下の子供に関しては2か月に1回のモニタリングとした。
	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○		今回、コロナ禍の為、担当者会議は全て中止あるいは欠席とした。利用者照会や電話連絡にて状況報告を行った。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		コロナ禍の為、来所を遠慮頂いた為、電話連絡にて行った。	コロナがある程度終息の方向を迎えてから再度見学等を受け入れられるようにする。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				該当者なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				該当者なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育園・幼稚園等の送迎時に必要に応じて情報共有を行っている。	担任の先生等から要望がある時は、必ずご家族を間に挟んで情報共有を行うようにしています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		今回は無かったが、ご家族や小学校からの要望によって参加していくようにしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	午前中に実施される研修会には指導員も含めて参加するようにする。	今回は参加出来なかったが、支援に支障が出ない範囲でFAXなどで案内が来る研修等に参加するようにしている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		外出イベントを利用し、一般の子供達と触れ合う機会を作っている。	幼稚園や保育園には行けないので、公園・体育館・見学施設・制作場所等、一般の方が来る場所にイベントを企画するようにしている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		コロナ禍の為、実施無し。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時を中心に話をしており、必要に応じて電話連絡も行っている。	利用が半年を過ぎた子から順番に1時間程度の保護者面談を実施している。また、2回目・3回目の面談も実施している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		運動・動作面等「発達支援」について相談があった場合に助言を行っている。	利用が半年を過ぎた利用者ご家族に対して、モニタリングを含めた面談を通して話をしている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際に全て説明している。	契約時に全て伝えている為、ボリュームが多く、全部理解されていない事が多いので、特に開始時はタイムリーに何度も説明するようにした。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		短期目標とそれを達成するための支援内容を中心に説明している。	支援計画の発行の際・更新の際は、ポイントを分かりやすく伝えるようにし、更新時は変更点を出来るだけ簡潔に話している。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談時や相談があった場合に助言を行っている。	保護者からの話の内容に対して聴く事を重視している。また、話しやすい送迎時に伝えられるようにしている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35		○		コロナ禍の為、実施無し。
	36	○		相談苦情記録を作成し、問い合わせがあった内容を全て記録し、対応出来るようにしている。	見学等の申し入れについてはご家族の希望を聞きながらその場で日時を決めるようにしている。
	37	○		3か月単位で写真集を発行し、活動内容が分かるようにしている。また、毎月、提出して頂く、予定表を行うイベント予定を記載している。	ブログも月1回以上更新するようにし、好評頂いているので引き続き、継続していく。
	38	○		より現実に近い個人情報同意書作成し、説明してから同意書を交わしている。	写真集配布時やHPに写真を掲載する際に個人情報同意書の内容をしっかりと確認するようにしている。
	39	○		プログラムを視覚化したり、終了の合図をタイムタイマーで行っている。また、保護者については連絡帳を活用している。	集団での指示が入りにくい子供に対しては1対1で伝え直せるように努めている。また、保護者についても口頭だけでは忘れてしまいがちなので、連絡帳にも記載するようにしている。
	40		○		コロナ禍の為、親でさえ招待する事は出来なかった。
非常時等の対応	41		○	玄関に立てて、誰でも見れるようにした。また、大阪府・市からメール添付されている各種予防・対策についてもファイリングするようにしている。	職員の周知は出来ているが、保護者への周知の仕方を考えていく。同時に現実に即した訓練方法を考えていく必要がある。
	42	○		頻度は高くないが、規定通りの訓練機会を作っている。	コロナ禍であった為、訓練は要点を抑えるように実施した。
	43	○		アセスメント時に状況を全て確認している。また、起こった際の対応策を保護者様から確認している。	今の所、実際に起こった事は無い。
	44	○		テーブルを別にし、さらに食べた後の手でその子を触らない様、指示を促している。	アレルギーが起こった時の対処方法と共に職員に周知している。(起こった際に必要な医薬品を持参して頂いている。)
	45	○		職員全員に作成機会を定期的に与え、ファイリングしている。	作成したヒヤリハットは必ず全員が目を通して、確認後、捺印するようにしている。
	46	○		施設内研修は、新たに職員が入ってきた段階で再び実施するようにしている。	外部研修も含めて、年に1回以上定期的に実施している。
	47		○		契約書や重要事項説明書等で説明しているが、該当者がいない為、支援計画には記載していない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。